

| | |
|---------|--|
| 氏名 | 宮本 真左美 |
| 学位の種類 | 博士（学術） |
| 学位記番号 | 博文化甲第25号 |
| 学位授与年月日 | 平成29年9月22日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第3条第3項該当 |
| 学位論文題目 | 艾未未アート「戦略」 —アートが「政治」を超えるとき |
| 論文審査委員 | 委員長 教授 牧 陽一 委員 教授 井口 壽乃 委員 教授 外山紀久子 委員 准教授 小野寺史郎 委員 多摩美術大学教授 榎木 野衣 |

論文の内容の要旨

艾未未（アイ・ウェイウェイ 以降アイと呼称する）は現在活発な活動を展開しているアーティストであり、その活動を追う紹介や主な代表的作品の批評は豊富だが、その詳細を探求する研究に匹敵する論評はまだ見出される段階ではない。こうした研究状況下で、本論文の充実は研究の先駆としてまず評価されるべきだろう。

アイ作品研究は、巨大で注目を浴びる代表的な作品や耳目を集める行動ばかりが強調され、詳細な研究は進んではいない。筆者はまずモノとしての作品に立ち返り、地道な調査と探求によって、より本質的な作品理解を進めている。例えば代表的作品や四川汶川大地震の調査など目立った行動についてこれまで大まかには論じられてきたが、作品の成り立ちや影響関係について詳細に論じられることはなかった。筆者はこれまで論じられてくることのなかった作品の背後にある具体的なプロセスと影響を調査し、明確に提示する。

本論文は作品を現地で詳細に調査し、アイ本人にインタビューを試み、作品の背景を考察した。また多くの研究論文先行研究を収集整理し、重要な要素を析出する。析出した成果から、作品について考察を重ねる方法で制作された。

そしてアイ作品の特質を明らかにし、世界の現代アートにおける新たな位置づけを行った。

アイの1970年代に関する従来の研究では最初の中国前衛芸術家グループ「星星画会」に参加したことや、絵画作品を数点発表したことしか明らかにはされていない。1章ではアイの陶器作品の成り立ちの面では従来指摘されてこなかった1970年代の陶器製作の修養時代を具体的に明示した。さらに石斧の収集と整理には自らが名もない人々の歴史を「認識」する過程に他ならないことを明確にした。

2章では作家の周辺に着目し、セルジュ・スピッツァーとのコラボレーションを取りあげた。そして「情報の平等性を問うものとして」その影響を明らかにした。またあまりにも通俗的であるという観点からこれまで論じることが憚られた12肖生作品とジャッキー・チェンの映画作品との関係を明らかにした。ここでは体制におもねるジャッキー・チェンとは対照的な方向性が見出せる。そして「歴史的なるものへの盲目的崇拜」と政府のプロパガンダである愛国主義宣伝を、批判的に捉えるアイの歴史への態度を明確にした。

3章ではこれまであまり注目されることのなかったSOHO現代城の設計について現地で詳細に調査し、都市空間での環境意識を反映させた新たな解釈を提示した。それは「伝統意識と無意識が合流するところ」であり、その表現が山水の表出に現れている点を指摘した。

また4章ではベネツィア・ビエンナーレの作品を現地調査した。アイが投獄されるという個人的な体験を1つ1つより具体的に作品化されることで、その底辺にある人権擁護の思想が形象化することを明確にした。

5章ではキュレーターとしてのアイの仕事に着目している。FUCK OFF2展を現地調査し、社会問題、人権問題を問うアイのキュレーターとして方向性を明白にした。

6章ではこれまで言及されてこなかったアイの花をモチーフにした作品群とアンディ・ウォーホルのフラワーシリーズ1960-70、フラワームーブメント1967年との関係を究明し、そのメッセージ性を明らかにした。さらにアイの作品「ひまわりの種」2011をフェリックス・ゴンザレス=トレスの作品と比較し、いずれなくなり、存在を消す生命のはかなさとして捉え、その共通性を初めて指摘した。また榎木野衣の論考を引きつつ従来の「価値の峻別を完全に均してしまう攻撃的概念」として工藝を把握し、アイ作品の積極的な働きかけを見出している。

7章では北京での汪家祠を現地で詳細に調査し、この作品は中国と海外に分断されたアイ自身の「身体」であるという新たな解釈を提示した。

8章ではアイの作品とレゴ社との対立の裏側には、レゴ社が中国進出を図っていた状況があることを明らかにした。このことで政治的圧力ばかりか、企業利益を求める側からの圧力もあることを明確にした。アイの表現の自由を求める行動は世界の問題点を抉り出し、人々を真相に近づかせる。一個人が世界に向けて何ができるのかという事を具体的に示した。その問題は中国だけにとどまることはなく、2017年公開の難民を描いたドキュメンタリー「ヒューマンフロウ（人流）」に結実する。そして9章では還暦を迎えるアイは80年代に交流した詩人アレン・ギンズバーグの態度に立ち返り、ボヘミアンとしてまさに人類の今日の問題を糾していく媒体そのものになった。ギンズバーグもアイも難民の苦境を現場で体験した点で行動を重ねることができる事を指摘した。博士學位請求論文の目次は以下のとおりである。

艾未未アート「戦略」 — アートが「政治」を超えるとき

序章

- 1 研究対象について
- 2 研究目的
- 3 先行研究
- 4 全体構成

第1章 破壊

- 1-1 陶器の記憶—なぜ陶磁なのか
- 1-2 太古へのまなざし
- 1-3 台無しにする

第2章 本物と偽物

- 2-1 複製—Fuck から Fake へ
- 2-2 鬼谷下山
- 2-3 Circle of Animals / Zodiac Heads

第3章 無為自然

- 3-1 北京・現代城ランドスケープ
- 3-2 建築に対する省察
- 3-3 艾未未の山水観

第4章 アートは現実を引きずっていく—第55回ベネツィア・ビエンナーレの艾未未

- 4-1 国際展示ドイツ館作品《Bang》
- 4-2 企画展「Disposition-Ai Weiwei」《Straight》
- 4-3 企画展「Disposition-Ai Weiwei」《S. A. C. R. E. D.》

第5章 現代中国社会の表層を剥がす—FUCK OFF 展 2

- 5-1 第1回 Fuck Off 展（2000年）の概要
- 5-2 Fuck Off 展 2
- 5-3 現代アートの政治性はどこから？

第6章 アンディ・ウォーホルと艾未未

- 6-1 Flower
- 6-2 時代相の媒体として

6-3 ひまわりの種

第7章 分断された身体—2015年北京5カ所での4つの個展

7-1 個展「艾未未」—当代唐人芸術中心および常青画廊

7-2 個展「彪 —Tiger! Tiger! Tiger!」と個展「AB型」

7-3 艾未未作品の創作の根底にある行為と意義

第8章 ベルリンへ

8-1 艾未未に対するさまざまな評価

8-2 自由と責任

8-3 艾未未 vs LEGO—どちらが政治的か？

第9章 ボヘミアンとして

9-1 艾未未の快進撃

9-2 問題は現場で起きている

9-3 Ai Weiwei in New York 2016

9-4 魂を救う

終章—まとめとして

論文審査の結果の要旨

学位論文審査会は、当該論文の発表会を2017年8月2日に公開で開催し、申請者による発表をふまえ、質疑を行って論文内容を審査した。

本論文における特徴的な研究上の方法、結論付けられた新たな知見・見解、また研究現況に付与する面を挙げる。

1、アイはアートが政治に利用される現状から、アート自体が、作家個人が自らの態度をもち、社会的政治的行動や表出を進めることで、アートの自立を押し進めた。こうした態度は世界の現代アートの潮流を先導するものに他ならない。本論文はその事を具体的に証明した。

2、本論文は、地道な現地調査や本人へのインタビューばかりではなく、作品の比較、歴史認識の形成や行動様式に至る総合的な研究方法でアイ・ウェイウェイを研究した成果である。

3、アーティストや作品の比較研究はいつそう深めて行く余地があり、今後の研究の課題とする。日本との関係では、例えば福島原発事故による帰還困難区域で現在も「開催」されている Chim ↑ Pom 「Don't Follow the Wind」への参加などを考えることで、四川大地震に拘ったアイの行動と思索がより客観的に捉えられるだろう。

4、「政治」や「たましい」という用語については筆者自身の認識をさらに確立すべきであり、そのことが研究の深化につながる。

本論文には、いくらかの問題点があることも事実であるが、数々の新たな調査成果と新解釈を持っており、どれにも説得力がある。総体としてみれば、当該研究領域において、一定水準以上の成果を付与する業績であると認定できる。また今後もいつそうの研究の発展が期待できる。

以上のことから、本委員会は、本論文が学位論文の要件を満たしており、博士（学術）の学位を授与するのにふさわしいものと判定した。